

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

3月

■味噌製造

原料米穀の価格上昇により収益を圧迫している。22年10月から政府米業務を民間へ委託。

■めん類製造

学校給食用の麺類加工賃改定は、食品全般に低価格傾向が続くことも影響し今年度は据置きとなった。

■シャツ製造

中国の旧正月の関係もあり、仕事量はますますであったが、収益は思わしくない。

■製材

前月同様、新築の需要は少なく、リフォーム中心であり、厳しい状況である。

■製材

取扱量が対前同30%の減少となり、住宅事情が良好しないために原木の輸入量が減少。休みの増加等で各組員共耐えている。

■印刷

3月の売上高は、2月と比較して、各社増加した模様。用紙の販売も1月から3月まで右肩上がりて推移した。しかし、一昨年の同月

比では85%となっている。

■生コン製造

若干、先の見通しがついてきたようであるが、依然として環境の厳しさは続いている。4/1より、新JIS改定に伴い、品質管理の徹底を図ることとした。

■電気鍍金

3月に入り、一部生産額が増加したが、この数値は昨年度が大幅に減少したために、当該年度と比べると増加となるが、これは一過性のもので考えるべき。

■鉄工

徐々にはあるが、受注増・設備操業度増が見られ始めたことは明る材料。しかし、低操業脱却には至っていない。

■機械部品製造

3月に入り注文が増えて操業度が上がってきている状況が窺える。総体的に先行き不安であるが、僅かながら回復傾向と思われる状況。

■機械部品製造

売上の確保が厳しい状況が続いている。売上が確保するために、価格の値引きを要求されることが多いようである。数円でもいいので円安傾向に振られてほしい。

■土砂採取

県議会において、鬼泪山国有林の山砂採取を求める地元事業者らの請願が採択された。

■総合卸売

新学期・新年度を前に、文具・事務機等の一部業者に取扱量の増加があるものの、総じて動きは鈍い。

■食肉卸売

明る兆しが見えない状況。極端な悪化。内需への依存度が高いため、公共事業予算が2割減少し、民需新築物件の低迷は当分続くことから、数量的回復は望めないため、生産縮小、リストラの嵐が吹き荒れている。

■自動車解体

年度末の為、入荷はやや多い。スクラップが上昇しているものの、仕入れ価格も上がってきている。

■小売

販売価格の下落傾向が続き、一部で春物がすで見切られている。

■電気機器小売

3月に入ってから、売れ筋の商品が不足気味になり、販売が減少した模様。商品があれば前年アツプできたはず。

■小売

下げ止まり横ばいから多少、上昇傾向。

■中古車販売

卸売市場、売り気配に（在庫調整理重視に傾く、引き合い鈍化の懸念も）。相場、弱含は必至。高年式高額車の軟調に警戒感も。直販や輸出が低調、大幅な乱れを懸念。

■小売

新入学関連品は、多少時期が遅くなって動き始めた。しかし、単価は減少。ファッションも景気減・気候の影響で売上減。食品は相変わらず、価格競争が激化。

■小売

寒さも緩み、春の気配から来店客に明るさが見えてきたが、個人消費の回復感が弱く、売上に結びつかない。

■自動車・自転車小売

1年で一番売上の延びる時期だが、昨年比でどうなるかが心配。

■小売・サービス

底止まりの気配は全く感じない。学生衣料取扱店では安い品を求めてインターネットへ多く流れていて、学校指定以外の標準学生服は大きく落ちてきている。

■小売・サービス

人口減少、高齢化とイオンのオーブンなどの影響で景気が良くなる

材料がなく、先行き不安である。

■建設揚重

需要停滞が続き、回復の兆しがない。

■害虫防除

前年同月比と比較すると順調な伸び。やはり、外来種の繁殖が非常に多い。ネズミ等の駆除が多くなっている。

■旅館業

3月は良好。4～6月が不安。

■遊覧船

2月3月雨のため、欠航が増えており、利益を圧迫している。

■一般廃棄物処理

年度末のため、引越しゴミ並びに事業者の粗大ゴミ等の依頼が多くあり、前月・前年同月に比べ、良い結果となった。

■ソフトウェア業

売上高・収益状況の前月比からの増加・好転は年度末という時期的な面である。前年同月比は依然厳しい状況にある。

■貨物運送

忙しくなるはずの年度末にもかかわらず、本来の忙しさがわからない。売上は前月比、前年同月比が上昇した感がある。

■輸出入業

売上は前月比、前年同月比が上